

ハウス内環境を把握しよう！・・・環境測定装置説明会・・・



12月2日、7日、13日、19日の4日間、幡多地域のキュウリ、トマト、ピーマンのほ場にて、環境制御機器の勉強会を開催し、合計26名の生産者が参加しました。

農業改良普及課からは温湿度管理や生育診断について、メーカーから機器の基本的な取扱方法やよくある質問とその対処法について説明を行いました。

参加者からは「日頃の疑問を解決できた」との声が聞かれるなど、有意義な勉強会となりました。

農業改良普及課は、今後もこのような勉強会を開催し、環境制御技術の普及・推進を行っていきます。

集落営農法人を設立するぞ！・・・地域を守る若者達・・・



12月13日、四万十市蕨岡集落で、9名が集落営農法人設立準備委員会を行いました。地元の若い農業者を中心に7名が組織設立に向けて話し合いを続けています。

農業改良普及課からは、管内の法人の活動状況や経営試算、補助事業の利用方法について情報提供し、組織運営について指導・助言しました。

農業改良普及課は、平成29年2月の設立総会に向けて支援を行っていきます。

キュウリの増収に向けて・・・キュウリ現地検討会の開催・・・



12月14日、黒潮町大方と土佐清水市でキュウリ現地検討会を開催し、生産者17名が参加しました。

農業改良普及課からは、幡多地域の品種動向や台木の特性、環境制御機器の導入状況について情報提供を行いました。また、参加者とともに生育状況の評価項目について検討しました。

参加者からは、今後の温度管理方法や樹勢の判断方法についての質問が出され、「女性向けの勉強会を開催してみてはどうか」といった声も出ました。

農業改良普及課は、今後も定期的に現地検討会を開催し、増収に向けた情報の発信を行っていきます。

冬場に向けて高品質なニラを・・・JA 高知はた佐賀支所ニラ部勉強会・・・



12月17日、JA 高知はた佐賀支所にて、ニラ部会員14名が参加して、冬場の増収・高品質化に向けた勉強会を開催しました。

農業改良普及課からはこれから発生が多くなる病害虫とその対策について情報提供しました。関係機関からは今年の気象条件と生育の傾向や販売概況についての説明がありました。生産者からは具体的な防除資材、販売単価などについて質問ありが活発な情報交換が行われました。

農業改良普及課では今後も関係機関と連携し、ニラの増収・高品質化に向けて支援していきます。

イチゴの安定生産に向けて・・・JA 高知はた宿毛支所イチゴ部会現地検討会・・・



12月8日、JA 高知はた宿毛支所イチゴ部会は現地検討会を開催し、参加者11名全員のほ場を回って収穫前の生育状況の確認を行いました。

農業改良普及課からは、『ミヤコカブリダニバンカーシート』の実証試験の途中経過について報告しました。

参加者からは、「他の地域の結果も知りたい。」、「興味はあるが、今後の結果次第。」等の声がありました。

農業改良普及課では、今後も関係機関と連携し、イチゴの安定生産に向けて支援していきます。

後継者の栽培管理技術の向上に向けて・・・第2回 文旦後継者栽培基礎講座・・・



12月15日、宿毛市宇須々木公民館で、文旦後継者栽培基礎講座を開催し、11名が参加しました。

農業改良普及課は、光合成の役割や植物生理等さらに、植物の生理生態を理解した上で管理することが、いかに樹の健全育成に重要であるかについて説明しました。

参加者からは、「今まで植物生理の話を聞いたことがなかったが、新鮮で興味深かった。もっと掘り下げた話も聞きたい。」という意見が出されました。

農業改良普及課は、2月に今回の講義内容を踏まえた剪定講習会を行います。

中山間複合経営拠点における雨よけシシトウ栽培の定着に向けて・・・H29 生産計画作成・・・



12月9日、(農)三原やまびこ事務所において平成29年の生産計画を検討し、役員他3人が参加しました。

農業改良普及課からは、平成28年の雨よけシシトウ試作結果をもとに、次作の誘引・整枝方法の改善と旬別の生産目標の設定等を提案しました。

参加者から、「今作の反省点を整理できて安心した」、「次作は日々の生産目標達成を特に意識する」という発言があり、中山間農業複合経営拠点における新たな取組の定着に向けた意欲を高めることが出来ました。

農業改良普及課は、今後栽培用ハウスの設置と定植前のほ場準備について支援をしていきます。

「黄玉ユズの品質向上に向けて」・・・JA高知はた西土佐支所ゆず目慣らし会・・・



11月21日、JA西土佐支所で、黄玉ゆずの目慣らし会があり、16名が参加しました。

農業改良普及課は、腐敗につながる果皮傷害についての注意喚起を行いました。また、昨年の腐敗多発を教訓に早期収穫を促すため、4～5分着色収穫でも適切な湿度管理を行えば、常温でも果皮の鮮度を保ったままレモン色に完全着色する試験結果を紹介しました。

参加者は、短期間で着色進行することに興味を持った一方、処理の手間を気にする声もありました。

農業改良普及課は、今後若穫りした果実の処理が簡単にできる方法を検討していきます。

